

主要事業評価シート(第1次実施計画／H29・30・R1年度)

①基本事項	計画コード	事業名			部名	産業建設部	
	17032	田園環境保全事業			課名	産業振興課 農業G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	08:自然との共生				款	06:農林水産業費
	施策の方向	02:森林・里山・農地の保全				項	01:農林水産業費
	戦略プロジェクト	-				目	03:農業振興費
	事業予定期間		H 29	～ R -	年度	主な根拠法令要綱等	

② 目的・概要	対象	農業者・集落営農組織
	目的	景観作物を一団の面積を有する農地に作付することで、農地を保全し、持続的な田園環境の維持を推進するとともに、転作の推進・耕作放棄地の未然防止・農村景観の維持等に図ることを目的とする。
	概要	市内に住所を有する者または集落営農組織を対象とし、中山間地域においては、30a以上、その他の地域においては100a以上の一団の面積を有する農地にれんげ・コスモス・菜の花・ひまわり等の対象作物を作付した場合、補助金を交付する。

③ 事業の計画・実績	年度計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		○補助金の交付 ・集団転作等の裏作として作付(3件/960a) ・景観作物のみ作付(単作)(7件/400a)		○補助金の交付 ・集団転作等の裏作として作付(3件/980a) ・景観作物のみ作付(単作)(8件/450a)		○補助金の交付 ・集団転作等の裏作として作付(3件/1000a) ・景観作物のみ作付(単作)(9件/500a)	
		○PRの実施 ・市フェイスブック等によるPR		○PRの実施 ・市フェイスブック等によるPR		○PRの実施 ・市フェイスブック等によるPR	
	年度実績	○補助金の交付 ・集団転作等の裏作として作付(2件/487a) ・景観作物のみ作付(単作)(5件/823a)		○補助金の交付 ・集団転作等の裏作として作付(2件/747a) ・景観作物のみ作付(単作)(5件/572a)			
		○PRの実施 ・市フェイスブック等によるPR 4回		○PRの実施 ・市フェイスブック等によるPR 3回			
	事業の計画・実績	計画額	事業費	3,600千円	3,800千円	4,000千円	
			国庫支出金				
			県支出金				
			地方債				
			その他				
		予算額	一般財源	3,600千円	3,800千円	4,000千円	
			事業費	3,520千円	3,800千円		
			国庫支出金				
			県支出金				
			地方債				
		決算額	その他				
			一般財源	3,520千円	3,800千円	0千円	
			事業費 ①	3,509千円	3,529千円		
			国庫支出金				
			県支出金				
			地方債				
			その他				
			一般財源	3,509千円	3,529千円	0千円	
	人件費	総人件費 ②		768千円	778千円		
		一般職員		768千円	778千円		
		所要人員		0.10	0.10		
		臨時職員等		0千円	0千円		
		総コスト(①+②)		4,277千円	4,307千円		
	受益者負担率		0.0%	0.0%			

				平成29年度	平成30年度	令和元年度
④ 指標	①	名称 補助金交付件数	活動 計画値	10	11	12
		年間の補助金交付件数	実績値	7	7	
			単位	件	件	件
	②	名称 作付面積	成果 計画値	1,360	1,430	1,500
		補助対象作付面積の合計	実績値	1,310	1,319	
			単位	a	a	a
	③	名称 市フェイスブック等を利用したPRの回数	活動 計画値	2	3	4
		市内外へ農地を保全することの意味や田園景観への取組を積極的にPRした回数	実績値	4	3	
			単位	回	回	回

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 農業経営の安定化を支援しつつ、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止に対する理解を得て継続的な運営を支援するため、国の交付金や他の補助金制度などの活用を推進する。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 農家や営農組織のやりがいや取組への動機付けに繋がるよう、市フェイスブックやマスコミ等によるPRを促進した。

評価		(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 農家や営農組織の担い手が高齢化していることなどから、新規の取組者拡大には結びつかなかったが、面積は微増した。また、広くPRするために、市フェイスブックなどを活用した。 B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 景観作物の作付により、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止に繋がった。また、市フェイスブックなどを活用した結果、マスコミにも取り上げられ、市内外に広くPRすることができた。 B まずまず成果を得た

⑦今後の対応方針	課題	【課題は何か】 農家や営農組織の担い手の高齢化や、収入と支出のバランスをとることの難しさがあるが、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止のため、今後も取組面積や取組者数を維持していく必要がある。	今後の方向性	☐ 拡大
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止のため、農業経営の安定化を支援できるよう、国の交付金や他の補助金制度などを活用し推進のPRを積極的に行う。		☒ 現状維持
				☐ 縮小
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 農業経営者の所得の安定を図るとともに、持続的な農地保全や耕作放棄地の発生防止に繋がる。		☐ 廃止
	対応時期	令和元年度		☐ その他
				【その他の場合、その内容を記載】

【1次評価者】	産業建設部 産業振興課 農業グループリーダー 村澤 亮
【最終評価者】	産業建設部 産業振興課長 富田 真左哉

（参考：前期基本計画期間（H29-R3）における評価履歴）

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	B			
	成果	B	B			